

図書館運営のあり方（要旨）

1. 目的

- ・ 小田原市図書館の質の向上に向けた具体的な方向性を整理し、「図書館運営のあり方」として取りまとめる。

2. 経緯と方向性

(1) 本市図書館施策の方向と現状

- ・ 本市図書館の目指す図書館像は「出会う図書館」であり、H26 に策定された「施設・機能整備等基本方針」では、小田原駅前の図書館整備を通じて、子ども・若者層の読書推進や中心市街地の活性化促進を図ること、かもめ図書館（以下「かもめ」）を幅広いサービス展開と図書館行政全般にわたる企画推進を行う中央館とする旨を位置付けた。
- ・ それを踏まえ、小田原駅東口図書館（以下「東口」）が指定管理により開館するとともに、かもめを中央図書館（以下「中央」）と改称し、旧市立図書館の地域資料と一般図書の一部が移設された。

(2) 公立図書館運営の方向性

- ・ 国の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」では、下記の事項が重要とされている。
- ・ 市民生活や仕事・地域の課題解決の支援に向けた、資料・情報提供サービスの実施。
- ・ 学習活動支援のための講座等の開催や施設の供用、図書館ボランティアの活動促進。
- ・ 専門サービスの充実のために必要な司書の確保、職員の資質向上に向けた研修実施。

3. 本市図書館の現状

- ・ 貸出利用は東口の開館以降増加し、R4 は 10 年前の水準まで回復している。
- ・ 東口は、利便性や施設の新しさ、スタッフ対応、イベントなどが高く評価されている。
- ・ 中央は、施設内容、蔵書数、地域資料などの特徴があり、本市図書館行政の司令塔であることから、図書館の活性化には中央のあり方を重点的に考えることが重要である。

4. 中央図書館の課題

(1) 運営の課題

- ・ 貸出利用は、市全体では利用の 3 割が 60 歳以上であるが、東口は若い世代（19～29 歳代）の増加もあり、中央でも若い世代の利用拡大が重要な観点となる。
- ・ 東口開館により資料予算は増えているが、既存蔵書を含む利活用促進を図ることが重要。
- ・ 職員体制について、正規職員の司書資格者が少なく、業務の専門性の確保が課題である。

(2) 施設機能の課題

- ・ 収蔵可能冊数に対し蔵書数は超過しており、今後の収蔵場所の確保が課題。
- ・ 開館から 30 年経過し、トイレや家具類など、多くの設備・機能の改修・更新が必要。
- ・ 視聴覚ホールや集会室、創作室など諸室は、設備刷新や機能見直しが必要。
- ・ 近年は図書館にカフェ機能を併設している事例もあり、それらを望む声も聞かれる。

5. 今後に必要な要素と基本的な考え方

(1) 今後の運営に向けた基本的な考え方と体制

① 外に開き市民とともに展開する図書館運営

- ・ 多様な市民が図書館サービスや運営に主体的に関わり、様々な価値観やスキルを活かせる機会を増やすことで、図書館の活性化を図っていく。

② 計画的な蔵書構成とストックの有効活用

- ・ 蓄積された図書や地域資料が新しい知見の提供につながるよう積極的に活用するとともに、東口と連携して市全体の蔵書構成の充実を図っていく。

③ 課題解決や価値創造に向けた取組推進

- ・ 様々な課題解決や価値創造につながるよう、図書館を情報・知の拠点として充実を図り、ビジネス活動の支援や市民の幸福につながる支援の観点でも取組を行っていく。

④ 蔵書の活用や活発な活動を支える職員体制の構築

- ・ これまでの中央の専門性確保の課題を踏まえ、業務ごとに必要な専門性の範囲を整理するとともに、適切な人的資源の配置を進めることが必要。

(2) 施設機能に対する基本的な考え方

- ・ 老朽化対応の改修に加えて、社会環境や社会通念の変化を踏まえた新しい機能や未来に向けた機能も意識した施設のアップデートが必要。

6. 基本的な考え方を見据えた取組

- ・ 学生の協力による取組や利用者参加の事業など、様々な活性化の形が見えてきている。
- ・ 専門性の範囲と体制の検証を継続的に行い、職員の司書資格取得の取組を開始した。
- ・ 選書会議を立ち上げ、東口との合同会議も開始。書架の配置換え等、利用促進に向けた取組を継続的に実施している。
- ・ 地域資料の活用方針や体制の整理と、外部アドバイザーの助言による資料活用や活性化の検討を継続して進めている。
- ・ 東口と「イノベーションラボ」との連携によるビジネス書籍の配架事業を実施。

7. 基本的な考え方に基づく今後の展開

(1) 外に開き市民とともに展開する図書館運営

- ・ これまで関わってきた読み聞かせグループや図書館ボランティアなどに加え、新たな層と関わりながら多様な市民参加の仕組みにより図書館の活性化を図っていく。

(2) 計画的な蔵書構成と地域資料の有効活用

- ・ 選書会議と東口との合同選書会議の充実を図り、計画的な蔵書構成を行っていく。
- ・ 電子図書館は、来館しにくい層や学校利用の観点を持ち、経費も踏まえつつ充実を図る。
- ・ 地域資料は、適切な保存と積極的な活用を図るため、政策的に取組を進めていく。

(3) 課題解決や価値創造に向けた取組推進

- ・ 地域課題やニーズとサービスのバランスを踏まえ、実利を意識して、取組を模索する。
- ・ 歴史ある本市の特性を踏まえ、地域資料と連携しての価値創造の観点も大切にする。

(4) 蔵書の活用や活発な活動を支える職員体制の構築

業務分野	必要な要素・スキル	体制・職種
① カウンター	適切な市民対応と確実な人員配置 サービスとシステムの基礎知識 等	業務委託
② 蔵書管理 レファレンス	図書・業務・出版に関する専門知識 資料活用の知識と経験 等	正規職員 会計年度任用職員
③ 行事等事業 ネットワーク施設	蔵書の知識、事業化の企画・運営力 関係所管との調整力 等	正規職員 会計年度任用職員
④ 市民参画 公民連携	社会課題や政策を踏まえた事業構想力 市民等と連携できるコーディネート力 等	正規職員

- ・ 業務分野ごとに専門性の水準を設定し、専門性のある職員の計画的な配置が必要。正規職員の資格者確保のための工夫に加え、専門性のある会計年度任用職員を継続雇用できるような労働環境整備が重要。
- ・ 地域資料業務は、正規職員が進捗管理し、政策的・計画的に業務遂行する体制を整える。

(5) 今後に向けた施設機能向上の方向性

① 収蔵量の拡大

- ・ 収蔵量の確保可能数や必要経費等の諸要素を踏まえ、既存の図書・資料の必要性や文化部全体の収蔵庫の課題も鑑みながら、最適解を見出していく必要がある。

② 快適な利用環境の整備

- ・ トイレや閲覧席等、劣化が進んでいる設備の補修や、館内サインの修正、映像設備が旧式化している視聴覚ホールの改修など、快適に利用できるよう環境整備が必要である。

③ 社会変化や新たな課題に対応した機能の充実

- ・ 地域資料コーナーの機能の整理・強化や、今後目指していく図書館活動、社会環境の変化を見越した諸室の改修等についても、検討を行っていく。

④ 施設機能向上に向けた検討体制

- ・ 利用者の使い勝手や社会環境の変化を踏まえた新しい使い方に係る改修については、長期的なビジョンに沿ったプランを定めることが重要であることから、様々な利用者が学習しつつ参画できるような検討手法を取り入れていく。